

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2021 年 **12月**

「天国で」「この世の終わり (II)」「キリストと律法」「もっちりレンコン団子」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「この世の終わり(Ⅱ)」

4

聖書の教え

朝のマナ

天国で

8

In Heavenly Places

現代の真理

「キリストと律法」

40

キリストと律法

力を得るための食事

「もっちりレンコン団子」

44

レシピ

お話コーナー

「すべてのものは、どのように始まったか? (Ⅰ)」

46

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2021年11月7日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

意志を神にゆだねる祈り

日常生活においてあなたは突発的な驚きや、失望や誘惑に直面する。聖書は何と言っているであろうか。神にしっかりと頼って、「悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ」とある。いつも、どこにいてもイエスを見上げ、神の御心を行うにはどうすればよいかを知ることができるように、真心から無言の祈りを捧げなさい。そうするとき、敵が洪水のように侵入してくるとき、主の御霊は敵に逆らってあなたのために旗を掲げて下さるであろう。あなたがまさに負けようとするとき、忍耐と自制を失おうとするとき、無情で非難がましくなろうとするとき、欠点を探してそれを責めようとするとき、そのときこそ、天に向かって次のように祈るべきである。「神よ、誘惑に抵抗し、わたしの心からすべての恨みや怒りや悪口を除き去るのを助けてください。あなたの柔和、あなたの謙遜、あなたの忍耐、あなたの愛を与えてください。わたしの賤い主を汚し、わたしの妻、わたしの子供たち、同信の兄弟姉妹の言葉や動機を曲解するままに放置しないでください。親切で、憐れみ深く、やさしく、寛大であるように助けてください。家庭で…人にキリストを表す者であるようにお助け下さい。」(7ドボンナト・ホーム 232, 233)

人間は、自分で自分を空にすることはできない。ただキリストが働いてくださることに同意することができるに過ぎない。そうすれば魂は次のように言うようになろう。「わたしは弱いのです。そして少しもキリストに似ていません。このようなわたしですが、どうぞお救い下さい。主よ、わたしの心をお受けください。わたしはこれを捧げることはできません。これは、あなたのものです。どうぞ清く保ってください。これを、わたしが保っていることはできません。どうぞ、わたしを練り、形づくり、清い聖なる雰囲気の中に引き上げて、あなたの豊かな愛の流れが、わたしを通して流れ出るようにしてください。」(キリストの実物教訓 139)

「いったいどうすれば、キリストにおることができるのでしょうか」とたずねる人があるが、それは最初に主を受け入れたと同じようにしたらよいのである。「あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい」(コロサイ 2:6)。…

毎朝、神に自分を捧げ、これを最初の務めとして、次のように祈ろう。「主よ、しもべを全くあなたのものとしてお受入れ下さい。わたしのすべての計画をあなたのみ前におきます。どうか、しもべを今日もご用のためにお使い下さい。どうか、わたしと共にいられて、すべてのことをあなたにあってなさしてください」と。これは毎日のことである。毎朝、その日一日、神に献身して、すべての計画をお任せし、摂理のままに実行するなり、中止するなりするのである。こうして、日ごとに生涯を神のみ手にゆだねるとき、次第にあなたの生涯がキリストの生涯に似てくるのである。(キリストへの道 93, 94)

第25課 この世の終わり(Ⅱ)

3. 宗教界におけるしるし

「イエスが言われた、『あなたがたは、惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がそれだとか、時が近づいたとか、言うであろう。彼らについて行くな』(ルカ 21:8)。

神の真理は、忠実なごく少数の人々によってのみ受け入れられるでしょう。地上における大多数の人々は、真の信心深さよりも、ファンタジーや想像に注意を払うことでしょう。「人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう」(テモテ第二 4:3,4)。

世の終わりの前に、純粋な真理の妥協によって、宗教界は偽りの礼拝を受け入れる準備をするようになります。「だれがどんな事をしても、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り、不法の者、すなわち、滅びの子が現れるにちがいない。彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する。」(テサロニケ第二 2:3, 4)。

あざける者が登場し、この世の終わりに関する聖書の教えについて笑うようになります。「まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し、『主の来臨の約束はどうなったのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない』と言うであろう」(ペテロ第二 3:3, 4)。

大多数の人々は宗教に興味を示さないにもかかわらず、なおも神の戒めを守り、イエスの信仰をもつわずかな人々がいます。反対されながらも、彼らはこの世に福音を宣べ伝えます。「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」(マタイ 24:14)。

4. 科学界におけるしるし

何世紀もの間、科学的な知識は抑圧されていました。暗黒時代である 538 年～ 1798 年は悲しい記録を残してきました。1798 年以降、偉大な発明や知識が急速に増していきました。預言者ダニエルには、こうなることが天使によって告げられました。「ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」。(ダニエル 12:4)。

以下のえり抜きの発明一覧が、その事実を示しています。ガス灯・1798 年、水蒸気による印刷機・1803 年、水蒸気による船・1807 年、織機・1808 年、鉄道用のエンジン・1814 年、リン・1820 年、写真・1822 年、刈り取り機・1834 年、電気製版機・1837 年、電報・1837 年、自転車・1840 年、ミシン・1846 年、潜水艦・1854 年、タイプライター・1867 年、電話・1876 年、電灯・1878 年、バイク・1885 年、自動鑄造植字機・1886 年、路面電車・1889 年、自動車・1889 年、アスピリン・1893 年、放射線・1895 年、映写機・1895 年、無線の電報・1896 年、飛行機・1906 年、無線電話・1915 年、ラジオ・1921 年、レーダー・1922 年、テレビ・1928 年、ペニシリン・1928 年、ナイロン・1930 年、ヘリコプター・1936 年、原爆・1939 年、コンピューター・1940 年、ジェット推進・1941 年、原子力・1942 年、トランジスター・1944 年、音速飛行機・1944 年、太陽電池・1954 年、宇宙船・1957 年、レーザー・1958 年、ビデオ・テープレコーダー・1958 年、宇宙における最初の人・1961 年、電子時計、宇宙ステーション・1962 年、電子計算機・1963 年、人の月面着陸・1969 年、フロッピー・ディスク記録機・1970 年、放射線の読み取り機、RAM 半導体、マイクロ・コンピューター・1972 年、ポケットテレビ・1977 年、パソコン・1981 年。

5. 自然界における印

「天の星とその星座とはその光を放たず、太陽は出ても暗く、月はその光を輝かさない。」(イザヤ 13:10)。

この預言は、イエスによって繰り返されました。「しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう」(マタイ 24:29)。

太陽、月、星に関するこれらのしるしは、正確に成就しました。1780 年 5 月

19日のおよそ午前10時に太陽は暗くなりはじめ、真昼には夜と同じような暗さになりました。人々や動物は非常な胸騒ぎを覚えながら、自分たちの家に退避しました。ロウソクの光がないと、彼らは物を識別することができませんでしたが、それもおぼろげでした。科学者たちは、その現象を説明することができませんでしたが、聖書を読んでいた人々は、これが神のみ言葉の成就であることを理解することができました。

預言者の言葉に記されているちょうどその通りに、その同じ夜、月は血のように赤くなりました。

その暗黒の日から53年たった後、多数の星が落ちることによって、次のしるしが成就しました。わたしたちは、それを流星として理解していますが、その流星の絶え間ない流れは、午後9時から、夜明けの光がその現象をかき消すまで続きました。その時、人々は終わりの時が来たと思いました。その光景は、メキシコからハリファックス(カナダ)におよぶ地域で見られました。主はこれらが「終わりの時」を先触れするしるしであると言われました。

以上の事柄の他に、恐怖で人々の心をくじく恐るべき災害が生じるのでした。「また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや天からの物すごい前兆があるであろう」(ルカ 21:11)。

かつて起こった中で最大の地震は、1755年にリスボンにおいて発生しました。その時以降、より多くの頻度で地震が発生しています。終わりの時代に近づくにつれ、わたしたちは、恐ろしいほどの規模の干ばつ、恐るべき結果をもたらす大洪水、破壊をもたらす竜巻を目撃しています。これらは、まだ今は憐れみが混じった神の裁きです。人々を警告し、悔い改めの機会を与え、それによって人々が世の終わりのために準備ができるようにというのが、神のご計画です。

この世は、どのように終わるか？

預言の確実な言葉のみが、この世がどのようなかたちで終わるかについて、わたしたちに告げることができます。それは科学者たちの推測に従ってではなく、神のみ言葉に従っておとずれます。「しかし、今の天と地とは、同じ御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである。…しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に

造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう」(ペテロ第二 3:7,10)。

この世においては、正義や義が共に宿ることは不可能です。そのため、主は、正義のうちに、この世に終わりをもたらされます。そのあと、主は、贖われた者たちが住む新しい世界を義のうちに造られます。「しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。」(ペテロ第二 3:13)。

この惑星がまさに、罪とあらゆる悪から解放され、清められたあと、新しくされた地となります。

わたしたちの準備ができているか、できていないかにかかわらず、この世の終わりは到来します。あなたは準備ができているでしょうか？

天国で

In Heavenly Places



12月

各時代の危機

「あなたがたはシオンでラッパを吹け。わが聖なる山で警報を吹きならせ。国の民はみな、ふるいわななけ。主の日が来るからである。それは近い。」(ヨエル 2:1)

悩みのときがわたしたちに迫っている。時のしるしの成就が、主の日が間近であるという証拠を与えている。新聞は、将来の恐ろしい争闘の兆候に満ちている。大胆不敵な強盗事件が頻繁に起こる。ストライキは日常茶飯事である。窃盗と殺人がいたるところで犯されている。悪魔にとらわれた人々が男女や小さい子供たちの命を奪っている。すべてこれらのものは、キリストの再臨が間近であることを証している。……

陸や海に起こる事故や災害に、また大火災に、激しい竜巻、ひょうの嵐、暴風雨、洪水、大竜巻、津波、そして地震のうちに、至るところで幾千のかたちで、サタンは自分の力を行使している。……

危機がわたしたちに徐々に忍び寄ってきている。天空には太陽が輝き、いつものようにめぐっている。そして天は、なお神の栄光を宣言している。人は今も飲み食いし、植え、建て、とつぎまためとりなどしている。商人たちは、なおも売り買いをしている。……娯楽を愛する者たちは、なおも劇場、競馬、カジノに押しかけている。最高の興奮が蔓延しているが、恩恵期間は、急速に閉じつつある。そして、すべての人の運命は、永遠に決定されようとしている。サタンは、自分の時が短いことを知っている。彼は、自分の代理をすべて動員し、恩恵期間が終わり、恵みの扉が永遠に閉じてしまうまで、人が欺かれ、惑され、占領され、有頂天になるように働きにつかせている。どんな人間の乳香も癒すことのできない悲しみの時がわたしたちのすぐそこにまできている。今は神の僕たちの額に印が押されてしまうまで、風が吹くことのないように、見張りの天使たちが、四方の風を引き止めている。しかし、神がご自分の天使たちに風を解き放つようお命じになるとき、筆舌に尽くしがたい争闘の場面が繰り広げられるのである。……

「われらの神は来て、もだされない。……神はその民をさばくために、上なる天および地に呼ばれる。『いけにえをもってわたしと契約を結んだわが聖徒をわたしのもとに集めよ』と」(詩篇 50:3-5)。(ビュー・アンド・ヘルド 1912年3月14日)

12月2日

警告

「そして、ノアの時にあったように、人の子の時にも同様なことが起るであろう。ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。」(ルカ 17:26, 27)

イスラエルの主なる神はご自身の栄誉を大切に守られる。そこでわたしは尋ねるが、神は、ご自分の家に住み、ご自分の物惜しみをしない宝庫からご自身によって食物や衣服を備えられているこの世の住民がご自分に向かって「ありがとう」すら言わないのをどう思われるであろうか。彼らは神の寛大な優しさを心にとめておらず、自分たちの創造主に反抗し続けていたために滅ぼされたノアの洪水前の住民のようである。

ノアの洪水以前の人々については、次のように書かれている。「主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた。……そこで神はノアに言われた、『わたしは、すべての人を絶やそうと決心した。彼らは地を暴虐で満たしたから、わたしは彼らを地とともに滅ぼそう』(創世記 6:5, 13)。

神は地をその不純から清める決意をしたことを古い世界の住民に警告されたが、彼らは迷信のような預言とみなしてそれをあざ笑った。彼らは洪水がおこるというノアの警告をあざけったのである。キリストは、地上におられた時、人々が、神の送られたメッセージを軽蔑しつつ真理を拒んだので、エルサレムの上に何がおこるかを警告された。だが、その警告は無視された。

主はご自分の使者を通して、万物の終りが近いことを明らかにしつつ、警告のメッセージをわたしたちに送ってこられた。ある者はこれらの警告に耳を傾けるが、大多数の者は無視する。

キリストが来られる時もこのようであろう。農夫、商人、弁護士、職人などはみな自分の仕事に没頭し、彼らにとって主の日は盗人のように来るであろう。

「だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである」(マルコ 13:35－37)。(原稿 161, 1897 年)

悩みの時

「それゆえに、天とその中に住む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわがわいである。悪魔が、自分の時が短いのを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである。」(黙示録 12:12)

わたしたちが終りの時代の危機に近づく時、敵の誘惑はますます強く、ますます断固としたものになる。サタンは自分の時が短いのを知り、強大な力をもって下ってきて、「あらゆる不義の惑わしを滅ぶべき者どもに対して」行なっている(テサロニケ第二 2:10)。彼はできることなら選民をも惑わそうとしていると、神のみ言葉を通して警告がわたしたちにきている。

驚くべき出来事がまもなく世の前に開かれる。万物の終りが近づいており、悩みの時が神の民に及ぼうとしている。その時には主の安息日を守る者は売ることも買うことも禁じられ、もしも彼らが週の第一日目を安息日としないなら刑罰を、そして処刑さえも下すと脅かす法令が施行される。

「その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ちあがります。また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます」(ダニエル 12:1)。これによってわたしたちは、自分の名が命の書に書かれていることの重要性が分かる。その名が命の書に記されている者はみなサタンの力から救い出され、キリストは、彼らの汚れた衣を脱がせて、彼らをご自分の義でまとうようにと命令される。「わたしがわたしの宝を作り上げるその日に、彼らはわたしのものとなる、と万軍の主は言われる」(マラキ 3:17 英語訳)。

悩みの時にサタンは悪人を扇動し、彼らは神の民を滅ぼすために彼らを取り囲む。しかしサタンは、天の書にある神の民の名の反対側に「許し」が書かれていることを知らない。彼らから「汚れた衣を脱がせなさい」。彼らに「祭服」を着せ、「頭に清い帽子をかぶらせ」なさいという命令がなされたことをサタンは知らない(ゼカリヤ 3:4, 5)。

神の御目にその民はなんと尊いことであろう。(レ・ユー・アンド・ヘラルド 1908 年 11 月 19 日)

12月4日

主にお会いすることのできるうちに

「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。」(イザヤ 55:6)

変わることなく増え続ける断固とした邪悪のゆえに、大都市の住民の上に、ほとんど全世界に及ぶ有罪の判決がすみやかにまた確実に近づいている。神は、み言葉についての知識と、その原則を実行することによって、人が神と一つになり、神のみ旨に従順になることができるようになるために、人に生命を与えて下さった。しかしサタンは、人が神にうとまれるようにと絶えず多くの策略をめぐらせて働いている。ノアの洪水前の世界では、人間はエホバの神の律法を効果のないものとするために、あらゆる工夫を考案し、発明の才に富む装置を作り出した。彼らは自分たちの計画の邪魔になるので神の権威を退けた。洪水前の時代のように、わたしたちの上に神がご自分の全能の力を表わさなければならない正にその時がきている。……

長年にわたってサタンは、自分が工夫を凝らしてきた巧妙な詭弁を真理にとって代わらせることにより、人間の思いを支配しようとしてきた。この危機の時に神を畏れる義人は、「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です」というダビデの言葉を繰り返すことによって神のみ名に栄光を帰す。(レ・ユー・アンド・ペラルド 1906 年 10 月 11 日)

わたしたちの神は憐れみに富む神である。このお方は辛抱強く愛情のこもった憐れみをもって、ご自分の律法を犯した者を取り扱われる。それでもなお今この時代に、男女が聖なる書物の中にあらわされている神の律法に精通するための機会が数多くある時に、宇宙の偉大な支配者は暴力と犯罪の行き渡っている邪悪な町々を少しも満足して見ることはおできにならない。……

神の忍耐ある寛容は非常に卓越しているので、このお方の戒めを辱め続けていることを考える時、わたしたちは驚く。全能のお方はご自身の特質に抑制力を働かせ続けておられるが、十戒の正しい主張をあまりに大胆に無視する悪人たちを罰するために必ず立ち上がられる。(同上 18 日)

今は神のみ前に心をへり下らせなければならない時である。このお方が判決を下す側ではなく、許しを与える側におられる間にこのお方を尋ね求めよう。兄弟姉妹方、目覚めなさい。……お会いすることのできるうちに主を呼び求めなさい。(同上 11 日)

猶予期間の閉じる時

「神はこう言われる、『わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞き入れ、救の日にあなただけを助けた。』見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。」(コリント第二 6:2)

今は正に、わたしたちにとって猶予の期間、天国のために準備をするべき時である。キリストは、わたしたちがこの猶予期間を持つことができるようにと、ご自分の生命を与えて下さった。しかし時が続くかぎりサタンはわたしたちを支配しようと努力する。彼は、人々が金銭を得ることに没頭するようにさせようと力一杯働いている。人々が世的な娯楽に夢中になるようにと数多くの娯楽設備を考案する。サタンは、彼らが心の内を飾ること、すなわち神のみ前にきわめて尊い、柔和でしとやかな霊という飾りをすべて忘れるようにと望んでいる。彼は、一瞬一瞬が野心的な事業を行う努力、自己を楽しませ満足させようとする努力で満たされるようにしようと強く決心している。……

サタンは神のみ声と良心の声を聞こえなくするために自分の影響力を用いており、世はあたかも彼の支配下にあるかのように行動している。人々はサタンを自分たちの指導者として選んでいる。……楽しみと娯楽のための計画に夢中になって、彼らは使えば消滅するもののために骨を折っている。……

すみやかに成就しつつある時のしるしは、主の大いなる日が間近に迫っていることを表わしている。その日にはわたしたちのうち誰もが次のように言うであろう。「この人は神に召されたが聞こうとせず、聞き従おうとしなかった。御霊が何度も何度も彼の心に働きかけたが、彼は、『きょうはこれで帰るがよい。またよい機会を得たら、呼び出すことにする』と言った。この人は美しい光の中に救い主の犠牲を見たが彼の心にさして重要ではないことが入り込んできて、心を奪われてしまい、……あらゆる恵み深い天の感化は退けられてしまった。」(原稿 161, 1897 年)

キリストは、いつでもわたしたちを罪より解放しようとしておいでになる。けれどもわたしたちの意志をいえることは決してなさらない。もしわたしたちがどこまでも罪を犯し続ける結果、意志は全く悪に傾き、罪より解放されることを望まず、キリストの恵みを受け入れようとしないならば、いったいキリストはほかになにをなさることができるだろうか。わたしたちは彼の愛をどうしても受けようとしないため、自らを滅びにおとし入れるのである。「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救いの日である」(コリント第二 6:2)。「きょう あなたがたがみ声を聞いたなら、心をかたくなにしていけない」(ヘブル 3:7, 8)。(キリストへの道 40, 41)

12月6日

備えの働き

「そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。」(ピリピ 1:6)

もしもセブンスデー・アドベンチストが自分たちの目前にある試みの経験の時に堅く立ちたいのであれば、彼らがしなければならない熱心な備えの働きがある。もしも彼らが終りの時代の混乱と誘惑の中で、神に対して忠実なままでありたいのなら、彼らは敵の欺きに抵抗するための知恵を求めて、心からへり下って主を求めなければならない。……

わたしたちは、主がまもなく帰ってこられるという荘厳な思いを絶えず心にとめ、この事のために果たすべき個々の働きを自覚していなければならない。聖霊の助けを通して、わたしたちは、悪に傾く生来の傾向や好みに抵抗し、キリストのようでないあらゆる要素を生活の中から抜き取らなければならない。このようにして、わたしたちは神の祝福を受けるために心を備えるのである。そしてこの祝福は、わたしたちに恵みを分け与え、わたしたちをイエスの信仰に調和させる。なぜなら、この備えの働きという大いなる特権は、神の御霊の代理者を通して送られた警告と教えのメッセージの中で、与えられた光の中でこの人々に与えられているからである。

サタンの誘惑の力が増しているので、わたしたちの生きているこの時代は、神の子らにとって危険に満ちており、一步一步、保証と義のうちに歩むことができるためには、絶えず偉大な教師であるお方に学ぶ必要がある。驚くべき光景がわたしたちの前に開かれているので、今この時、生きた証が神の民と称する人々の生活の中に提示されなければならない。それによって、邪悪が至る所を支配しているこの時代に、自分たちの意志を捨てて、神のみ旨を行おうと努力している人々、すなわち、その心と生活の中に神の律法が書きつけられている人々がまだいることを世が見ることができるためである。わたしたちの前には強い誘惑、厳しいテストがある。戒めを守っている神の民は、神の事柄におけるより深い経験と、キリストの義についての実際的な知識を得ることにより、この時代の危機のために備えをすべきである。……不信心な者だけでなく、教会員のために、次の言葉が語られている。「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ」(イザヤ 55:6)。……

あなたの日々の生活があなたの告白する信仰に対する証となるようにしなさい。(ビュー・アソッド・ヘルド 1911年9月28日)

わたしたちの確かな防御

「忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう。」
(黙示録 3:10)

サタンは過去のどの時代よりも、魂に対する人生ゲームをすることにますます熱心にならずさわっており、わたしたちが絶えず防御していないかぎり、自尊心、自己愛、世に対する愛そして他の多くの悪い特徴をわたしたちの心に植えつける。彼はまた、神とそのみ言葉の真理に対するわたしたちの信仰を不安定にしようと可能なかぎり、あらゆる策略を用いる。もし、わたしたちが神のことについて深い経験をせず、神のみ言葉の完全な知識を持たないなら、わたしたちは誤謬と敵の詭弁により、滅びへと欺かれてしまう。偽りの教理が人の土台を弱める。なぜなら、彼らは真理を偽りから区別することを学んでいなかったからである。サタンのたくらみに対するわたしたちの唯一の防御は聖書を勤勉に研究し、自分の信仰の理由を知的に理解して、知るかぎりのあらゆる義務を忠実に実行することによる。自分の知っている一つの罪に対して怠惰であると、激しい誘惑に対して、わたしたちを弱め、暗くし、わたしたちを激しい誘惑にあわせる。……

わたしたちの祈願は生きた信仰のうちに神のところに上っていつているであろうか。わたしたちの心はイエスに対して心の扉を開き、サタンに対しては入口となるあらゆる方法を閉じているであろうか。わたしたちは、キリストの義のうちに立つことができるために、日毎によりはっきりとした光をより大きな力を得ているであろうか。わたしたちは、あらゆる利己的な心を空にし、それを清めて、天からの後の雨を受ける備えをしているであろうか。

今は、わたしたちが自分の罪を告白し、これを捨てさるなければならないその時であり、それはわたしたちの罪が審判に先立ってぬぐい去られるためである。今は「肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くな」るための時である(コリント第二 7:1)。この働きを遅らせるのは危険である。サタンは今もできるかぎり多くの者の破滅を確かなものにするために、海と陸に災害をもたらしようと努力している。この時代に神の民の防御はなんであろうか。それは天との生きたつながりである。もし、わたしたちが有害な悪疫から守られて暮らしたいのなら、目に見える見えないにかかわらず、さまざまな危険から守られたいのならわたしたちは神の内に隠れなければならない。わたしたちはイエスと聖天使たちの守りふせぐ保護を自分のものとしなければならない。(ビュー・アッド・ハルト 1908 年 11 月 19 日)

12月8日

サタンの惑わしに気づく

「あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの霊力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。」(コロサイ 2:8)

わたしたちは、サタンの代理人たちの力から救われたいのであれば、神に堅く信頼する必要がある。もしもわたしたちがみ言葉の教えを注意深く守るなら、み言葉の真理はこの終りの時代の惑わしからわたしたちを救う防御となる。わたしたちは真理が必要であり、この真理を信じる必要がある。真理の原則は人生のあらゆる情況に適合し、魂を義務に対して準備させ試練に備えて身構えさせる。真理の原則は天の創始者の印をその身に負っている。……

人間の心にある生来の頑固さは真理の光を拒む。意見という生来の自尊心は自分の判断へと導き、人間の考えと哲学への執着へと導く。ある人々は独創性への願望によって、信仰に不安定になる危険性が絶えずある。彼らは何か新しい奇抜な真理を提供するために、それを見つけないと願ひ、人々にもたらす新しいメッセージを持ちたいと願うが、そのような願望は、人の思いをとりこにして真理から引き離そうとする敵のわなである。……自分が確信していることが真理であるということを信じる自分の信仰についての理由を理解し、人間の詭弁を提供されても信仰から離れたりはしない人々を、神は持ちたいと思っておられる。……この終りの時代に、わたしたちは大きな増し加わる信仰が必要である。わたしたちはどのような人間の拠り所からも知識や知恵を引き出すのではなく、神の知恵の富の中にだけ見出される知識と知恵によって信仰を確立する必要がある。

第三天使のメッセージの真理を受け入れた人々は、信仰によってそれを堅く保っていなければならない。そうすればその真理が、お互いから、また神から彼らを引き離そうとする迷信や学説に流されないように、彼らを保つ。わたしたちがセブンスデー・アドベンチストとして保っている真理を受け入れたことは偶然の経験ではなかった。熱心な祈りと靈感を受けたみ言葉を注意深く探ることによって、それに到達したのである。主はわたしたちを完全な一致のもとに歩み、また働かせたいと思っておられる。そのみ名、キリスト・イエスがわたしたちの合言葉であり、このお方の模範が私たちを識別する記章であり、このお方のみ言葉の原則がわたしたちの敬神の土台でなければならない。わたしたちの力は精神と行動の一致の内にある。(ビュー・アンド・ヘラルド 1909年8月19日)

わたしたちの保護手段である真理

「そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、また、『あそこにいる』と言っても、それを信じるな。にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。」(マタイ 24:23, 24)

サタンは誘惑の荒野で、キリストのもとへ神の宮廷からの天使としてやってきた。救い主が敵を識別したのはサタンの外観ではなく、彼の言葉によってであった。(レビュー・アンド・ハルト 1909 年 7 月 22 日)

自分がキリストであると主張しながら、サタンがあなたの目に正しいと思える奇跡を行う時が来ている。だからもしもあなたの足が神の真理にしっかりと定着していないなら、その時あなたは自分の土台から連れ去られてしまうであろう。あなたにとって唯一の安全は、真理を隠れた宝のように探し求めたことにある。地の中にある宝を掘り当てるように真理を探究しなさい。そして天父のみ前に、神のみ言葉である聖書を開いて、「わたしを教え導いて下さい。何が真理であるかを教えて下さい」と言いなさい。そして真理をあなたの魂に印象づけるために、神の聖霊があなたの心に入り込む時、あなたは聖霊をたやすく去らせることはしない。あなたは、あらゆる点において確立している聖書を探ることにより、そのような経験を自分のものとしている。(同上 1888 年 4 月 3 日)

神の御霊の啓発がなければ、わたしたちは誤りから真理を識別することができず、サタンが世にもたらそうとしている巧みな惑わしと誘惑の支配下に入ってしまう。わたしたちは光の君と闇の君との間の争闘の終結に近づいており、まもなく敵の惑わしはわたしたちの信仰がどのようなものであるかを試すであろう。(同上 1892 年 11 月 29 日)

わたしたちが信仰と霊的な啓発を必要としている時があるとすれば、それは今である。神のみ旨を知って行ないたいと熱望して日々たゆまず気をつけて祈り、聖書を探り調べている人々は、サタンのどのような惑わしによっても正道からそれてしまうことはない。……わたしたちはあらゆる点において真理を望んでいる。わたしたちは誤りのない真理、格言や習慣、また世の意見によって汚されていない真理を望んでいる。どのような不都合なことがあっても真理を望んでいる。真理を受け入れるということは常に十字架を含む。しかしイエスがご自分の生命をわたしたちのための犠牲として与えて下さったのであれば、わたしたちはこのお方に最高の愛と最も聖なる向上心、そして満ち溢れる奉仕を捧げないであろうか。(同上 1885 年 8 月 25 日)

12月10日

猶予の時

「主は悪を憎む者を愛し、その聖徒のいのちを守り、これを悪しき者の手から助け出される。」(詩篇 97:10)

主はまもなく来られる。邪惡、謀反、暴力、犯罪が世界に満ちている。苦しんでいる者、圧迫されている者の叫びが審判の場におられるお方の所へ上っている。神の忍耐と寛容によって和らげられているその場で、邪惡な者たちは頑固な反抗を強めている。わたしたちが住んでいるこの時代は墮落のきわだっている時代である。宗教の抑制力は振り捨てられ、人々は神の律法を拒んでいる。常軌を逸した侮蔑がこの聖なる律法に向けられている。

神の慈悲により、猶予の時がわたしたちに与えられている。天から貸し与えられたすべての力は、無知のうちに滅びつつある人々のために、主からわたしたちに割り当てられている仕事をするに用いられるべきである。警告のメッセージが世界中で鳴り響かなければならない。この働きは遅れてはならず、真理は地の暗い所に布告されなければならない。支障がおきるにちがいないが克服しなければならない。偉大な働きがなされなければならない、この働きは現代の真理を知っている人々に委ねられている。

今はわたしたちの力であるお方の腕をしっかりとつかむ時である。「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です」というダビデの祈りが牧師や信徒の祈りとなるべきである(詩篇 119:126)。神の僕に、廊と祭壇の間で「主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業をもろもろの国民のうちに、そしりと笑い草にさせないでください」と泣いて言わせなさい(ヨエル 2:17)。

神は常にご自分の真理のために働いておられる。邪惡な者、教会の敵の計画は神の力とそのくつがえす摂理に服従する。神は政治家の心を動かすことがおできになる。もしも神がそのように命じられると川の流れも変えられるように、神の真理と神の民を憎む者の怒りはそらされる。祈りは全能者のみ腕を動かす。諸天の星を秩序正しく配置しておられる方、そのみ言葉が深い海の波を支配しているその同じ無限の創造主が、ご自分の民が信仰をもってご自分を呼び求めるならば、彼らのために働いて下さる。このお方は、警告が全世界に与えられ、その警告に聞き従うすべての者をご自分の来臨のために備えができるまで、闇の力をすべて抑制される。(見張り人 1908 年 1 月 7 日)

祝福された望み

「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。」(テトス 2:13)

イエスは、ご自分のおられるところにわたしたちもいることができるように、行ってわたしたちのために場所を用意されると仰せになった。わたしたちはずっとそこに共にすみ、このお方の尊い顔の光を楽しむのである。元気づけられる期待にわたしの心は踊る。わたしたちはほとんど家に着くところである。天国、幸せな天国!そこは永遠にわたしたちの家なのである。わたしは、イエスが生きている毎瞬間を喜ぶ。なぜなら、このお方が生きられるので、わたしたちも生きるからである。わたしの魂は、主をほめ讃えよ、と言う。イエスには満ち満ちた徳があり、一人びとりのために、そして全員のために備えがある。そうであれば、わたしたちは、なぜ異郷の地でパンのために死んだり、あるいは飢えたりするのだろうか。

わたしは救いに飢え渴いている。神のみ旨に完全に一致することに飢え渴いている。わたしたちには、イエスを通して幸福な希望がある。それは、確かに動かされることなく、幕の内に入り行くものである。それは、わたしたちのために苦悩のうちに慰めを生み出す。それは、苦痛の中であって喜びを与え、わたしたちを囲んでいる闇を散らす。そして、それらすべてを貫いて、不死と永遠の命を見させるのである。……地上の宝は、わたしたちにとって何の誘惑ともならない。なぜなら、この望みがある間は、やがて過ぎ去る地上の宝をはるかに越えて、不朽の嗣業、すなわち耐久性のある、朽ちず汚れずしばむことのない宝に届くからである。……

わたしたちの死すべき体は、死んで墓に葬られるかもしれない。しかし、祝福された望みは、イエスのみ声が眠っているちりを呼びだされるよみがえりの時まで生きる。そのとき、祝福された栄光の望みを完全に楽しむ。わたしたちは自分たちが信じてきたお方を知っている。むなしく走ったり、無駄に労したりはしない。豊かで栄光に満ちた報いがわたしたちの前にある。それは、そのために競争してきた賞与であり、もしわたしたちが勇気をもって耐えるならば、確かにそれを獲得するのである。……

わたしたちのために救いがある。そうであれば、なぜ、泉から退いているのであろうか。わたしたちの魂が活気付けられるために、鼓舞され、神にあって繁栄するため、なぜ来て飲まないものであろうか。なぜこれほどまでに地に執着しているのであろうか。わたしたちには、語るにも思うにも地よりすぐれたものがある。わたしたちは、天来の思いのうちにいることができる。ああ、イエスの麗しくしみのないご品性を瞑想しようではないか。そして眺めることによって、同じみ姿に変えられるようになる。勇気を出しなさい。神を信じる信仰を持ちなさい。(手紙 9, 1856 年)

12月12日

死に対する勝利

「この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就するのである。『死は勝利にのまれてしまった。』」(コリント第一 15:54, 55)

「こう話していると、イエスが彼らの中にお立ちになった。[そして「やすかれ」と言われた]」(ルカ 24:36)。……

ここにわたしたちには、自分たちの前にキリストが生ける救い主であられるという尊い証拠がある。ほんの少し前には、このお方はヨセフの新しい墓の中に取り囲まれていた。しかし、このお方は、死の縄を打ち破り、勝利に満ちた征服者として出てこられた。……神の御使が、このお方はよみがえられた、といった。すばらしい証! 世の希望! キリストはよみがえられた、そして彼らの救い主はよみがえられた救い主である! ……キリストは勝利を獲得された。そして人は墮落し、死刑を宣告されていたにもかかわらず、彼は再び生きることができる。イエスにあって死んだ者たちは、自分たちの牢獄から栄光の不死へと呼び出されるのである。……親愛なる友人方、このお方はよみがえられたのだ、あなたは落胆の中で……イエスがあなたに平安を与えるためにあなたの傍らにおられることを知ることができる。

わたしには自分が何を言っているのかわかっている。わたしは、波がわたしの頭を超えたときを経験してきた。そのときわたしは自分の救い主がわたしに尊いお方であるのを感じた。わたしの長男が取り去られたとき、自分の悲しみは非常に大きいと思った。しかしイエスは、わたしの傍らにいられた。そして、わたしはこのお方の平安を心に感じた。慰めの杯がわたしの唇に置かれた。

そして、それから、わたしの傍らに 36 年間いた人が……取り去られた。わたしたちは、伝道においていつも二人三脚で働いてきた。しかし、わたしたちは、戦士の手を組み合わせ、彼を静かな墓の中に休ませるために横たえなければならなかった。再び、わたしの悲しみはとても大きいように思えた。しかし、最後には慰めの杯がもたらされた。イエスはわたしにとって尊いお方である。このお方はわたしの傍らを歩んでくださった。……そして、このお方は、あなたの傍らを歩まれるのである。わたしたちの友人たちが墓に入るとき、彼らはわたしたちにとって愛しい。わたしたちが葬るのは自分たちの父や母であるかもしれない。彼らが出てくるとき、それらのしわはすべてなくなっているが、その形はとどめていて彼らを認めるのである。……わたしたちはこれらの愛しい友人たちがよみがえりの朝に出てくるときに彼らと会う準備をしたいのである。……このお方のまことの御姿を見るので、自分たちが彼に似るものとなるという、福音の中にある希望を自分たちの前において堅くつかむであろうか。(原稿 80, 1886 年)

天の王の子供たち

「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ 14:2, 3)

「だから、『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる』」というのが招きである(コリント第二 6:17, 18)。ああ、これは何という昇進であろう。王家の一員となり、天の王の子供になるというのである! 宇宙の救い主、王の王が名指しでわたしたちをご存知であるということ、そして、不死の嗣業、すなわち永遠の財産を継ぐ神の相続者となるとは! これがわたしたちの特権である。わたしたちは賞与を得るであろうか。主の戦いを戦うであろうか。門へ向かって戦いを推し進めるであろうか。勝利者になるであろうか。わたしは、自分が天を獲得しなければならないと決心した。そして、わたしはあなたにそれを獲得してほしいのである。……

聖書を調べなさい。なぜなら、それは、あなたにイエスについて教えるからである。わたしはあなたが聖書を読み、そして、イエスの比類なき魅力を見るようにと望んでいる。わたしは、あなたがカルバリーの人々に心を奪われることを望んでいる。そうすれば、あなたが世に向かって一歩進むごとに、このお方の「道は楽しい道であり」、このお方の「道筋はみな平安である」(箴言 3:17)とすることができるようになる。あなたは、世に対してキリストを代表したいと望む。あなたは、世に自分が不死の伴う大きな希望を持っていることを示したいのである。あなたは、救いの水を飲みたいと思う。あなたは天の御使たちがあなたの住まいにいることを望む。あなたはキリストがそこに宿ることを望むのである。……

わが魂よ、主をほめたたえよ! このお方は、わたしのために住まいを用意しに行くと言った。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである」(ヨハネ 14:1-3)。

神に感謝せよ! わたしが待ち望んでいるのはこれらの住まいである。それは、この地上にある住まいではない。なぜなら、それらは、大きな地震によってまもなく震われて倒れてしまうものだからである。しかし、キリストが忠実な者たちのために用意しに行かれたのは、これらの天の住まいである。わたしたちにはこの地上に家はない。ここでは、よりよい地、すなわち天に向かって進んでいる旅人であり、寄留者に過ぎない。……神がわたしたちに永遠の命という賜物を勝ち取るのを助けてくださいますように。(原稿 80, 1886 年)

12月14日

もしキリストが今日来られるとすれば

「これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい。」(ルカ 21:36)

キリストはわたしたちに地上に起ころうとしている事柄をまぬかれるにふさわしい者だとみなされるために、見張りなさいとお命じになる。わたしたちがこの警告に注意を払うことは最も重要なことである。あらゆる義の敵は、わたしたちの後を付けねらい、わたしたちに神を忘れさせようとしている。

わたしたちは、キリストがまもなく来られるということを考えて喜びに満たされるべきである。このお方は、ご自分の再臨を待ち望む者たちに、罪なき救いに至らせるため来られるのである。しかし、もしわたしたちの思いが地上の事柄でいっぱいになっていたら、わたしたちは、このお方の再臨を喜びをもって待ち望むことはできない。

「もし、キリストが数年のうちに来られることがわかっていたら」とある人は言う。「わたしはとても違った生き方をしていることでしょう」。しかし、もしこのお方が来られることを少しでも信じているのであれば、わたしたちはこのお方が数年のうちにこられることを知っているかのように忠実に生きるべきである。わたしたちははじめから終わりを見通すことはできない。しかしキリストは、年中、日ごとに十分な助けを与えてこられた。わたしたちが取り扱わなければならないのは、この一日だけである。今日自分たちの信任に忠実でなければならない。今日、心を尽くして神を愛し、自分の隣人を自分自身のように愛さなければならない。今日、敵の誘惑に抵抗し、キリストの恵みを通して勝利を獲得しなければならない。こうして、わたしたちはキリストの来臨のために見張り、待つのである。日ごとに、わたしたちは、それがあたかも地上における自分の最後の日であるかのように生きるべきである。もしキリストが明日来られることを知っていたならば、今日という日を、わたしたちができるかぎりのあらゆる種類の言葉、あらゆる利己的な行いで満たしたりはしないのではなかろうか。わたしたちは、忍耐強く、親切で、非常に熱心に、自分のあらゆる力を尽くして、魂をキリストに勝ち取るべきである。

.....

わたしはあなたに思いが世の事柄を思うのをやめて、それらを永遠の事柄に集中させるようにと強くお勧めする。キリストは永遠の命をあなたの手の届く範囲においてくださった。そしてこのお方は必要なときにはいつもあなたに助けをお与えになることを約束された。……わたしたちは、現在達成したことに満足して安んじていてはならない。もしわたしたちが思いと心をわたしたちのための神の理想に到達する働きに投じているならば、もしわたしたちがキリスト、すなわち力強い助け主の許へ助けを求めていくなれば、このお方はわたしたちに、わたしたちがまさに必要としている援助を与えてくださるのである。このお方は、わたしたちを悪に対する苦闘において勝利者として下さるまさにその力をわたしたちに与えてくださる。(原稿 11, 1885 年)

あなたは準備ができているだろうか

「だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。」(マタイ 24:44)

今日キリストが天の雲に乗って再臨なさると考えてみなさい。……だれがこのお方にお会いする準備ができているだろうか。わたしたちが、今日ありのままの姿で天の王国に移されると考えて見なさい。わたしたちは神の聖徒たちと一つになり、王家、すなわち天の王の子供たちと調和して生活する準備ができているであろうか。あなたは裁きのためにどんな準備をしてきたであろうか。あなたは、神と和らいできたであろうか。……あなたは自分の周りにいる人々、すなわちあなたの家庭にいる人たちを、あなたの近隣にいる人たちを、あなたの接触する神の十誡を守らない人たちを助けようと努力しているだろうか。……日常生活の中で実行されないならば告白には何の価値もないことを覚えていなさい。神は、わたしたちが、真理のうちにご自分の律法を守っているかどうかをご存知である。このお方は、わたしたちが何をしているか、わたしたちが何を考え、何を言っているかありのままをご存知である。わたしたちは、王にお会いする準備ができているであろうか。このお方が天の雲に乗って力と大いなる栄光と共に来られるとき、あなたは「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる。これは主である。わたしたちは彼を待ち望んだ。わたしたちはその救を喜び楽しもう」と言うことができるであろうか(イザヤ 25:9)。このように言うことができる者たちに対して、キリストは、「高くあがって来なさい。この地上にあつて、あなたはわたしを愛してきた。あなたはわたしの意志を行うことを愛してきた。あなたは今、聖なる都に入り、永遠の命の冠を受けることができる」と言われるであろう。

もしわたしたちが、ありのまま天国に入ることを許されるとすれば、わたしたちのうちいったい何人が、神を見ることができようか。わたしたちのうち何人が礼服を身につけていることであろうか。わたしたちのうち何人がしみもしわもその類のものが一切ない者であろうか。……

今はわたしたちが洗い、アイロンをかけるとき、すなわちわたしたちが自分たちの品性の衣を小羊の血で洗うべき時である。ヨハネは「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」といっている(ヨハネ 1:29)。……わたしたちは、自分たちの罪を取り除いていただかないのであろうか。……

兄弟姉妹の方々、わたしはあなたがたに永遠の命の冠を得るために熱心に働くようにと嘆願する。報いは争闘と、努力にふさわしいものである。……わたしたちが走っている競走では、すべてのものが差し出された報い、すなわち永遠の命の冠を受けることができる。わたしはこの冠がほしい。わたしは、神の助けによって、それを得る。わたしは、王をその麗しさのうちに見るように、真理を堅くつかむと決めている。(世界総会冊子 1903 年 4 月 6 日)

いばらの冠—栄光の冠

「そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。」(マタイ 24:30)

キリストは天の雲に乗って、力と大いなる栄光とをもって来られる。だが……このお方に平安のうちにお会いするであろうか。だが「その日にイエスは下ってこられ、聖徒たちの中であがめられ、すべて信じる者たちの間で驚嘆されるであろう」というみ言葉の当てはまる人々のうちに数えられるであろうか。

それは大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現と呼ばれている。このお方の再臨は、人の目がかつて見たあらゆるものに勝って栄光に満ちている。想像力が捕らえるどんなものにもはるかに勝って、このお方は実際に天の雲に乗って現れるのである。そのときは、初臨のときに伴っておられたへりくだりとは完全な対照を成している。そのとき、このお方は無限の神のひとり子としてこられたのであったが、このお方の栄光は人性という上着で隠されていた。そのときは、このお方は世で王家を区別するようなものは何も伴わず、また目に見える栄光の現われも何もなく来られた。しかし、このお方の再臨のときには、このお方はご自身の栄光、また御父の栄光を持って来られ、天の万軍の御使たちを引き連れてこられる。このお方の額を傷つけたいばらの冠の変わりに、このお方は、冠の中に冠の入っているものをつけておられる。このお方は、もはや屈辱の衣、このお方をあざける者たちの着せた古い王衣を身にまとわれることはない。否、このお方は、最も白いものよりさらに白衣を身にまとしてこられる。このお方の胸とももには、「王の王、主の主」という名が記されている。

神の代表者として、キリストは、人間の肉体のうちに出現なさる。人の姿ではあるが、このお方は神のひとり子であられ、そして世は自分がこのお方をどのように取り扱うかを見る機会が与えられたのであった。キリストは「わたしを見た者は、父を見たのである」と宣言なさった(ヨハネ 14:9)。しかし、このお方は、二度目に来られるとき、神性はこれ以上隠されることがない。このお方は、神と等しいお方として、このお方ご自身の愛されたひとり子として、天地の君としてこられる。このお方はまたご自分の民の贖い主であり、命の与え主であられる。御父と御子の栄光が一つになるのが見られる。……そのとき、このお方が「その長老たちの前に」輝いて現れる(イザヤ 24:23)。(手紙 90, 1898年)

言葉に尽くせない栄光

「それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかかめ、また、あらゆる舌が、『イエス・キリストは主である』と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。」(ピリピ 2:9－11)

御父の知恵と栄光がこのお方[キリスト]の大権のうちに輝き出る。このお方は信じるすべての者にとって高められ、尊い。しかし、このお方ご自身の個人的な栄光をだれが述べることができよう。このお方は、はっきりと明らかにされたご自身の神性を持っておいでになる。このお方は人に否定され、拒まれて、ピラトの法廷に犯罪人として立たれたのであった。……

キリストは今や栄光の王として認められる。「主の御名によってきたる者に、祝福あれ」(マタイ 21:9)。このお方の神性に対する疑問は永遠に解決された。救い主をピラトの法廷に引き立てて行った者たちはどこにいるか、このお方のみ顔を打ちたたいた者たちはどこにいるか、このお方にむち打った者たちはどこにいるか、このお方の手足に釘を打ち込んだ者たちはどこにいるか。このお方を「他人を救ったが、自分自身を救うことができない」と言ってあざけた者たちはどこにいるか(マタイ 27:42)。……今 このお方に向かって振り上げられる弱々しい手はどこにあるか。場面は変わった。イエスの御名にすべての膝がひざまずき、そしてすべての舌がイエスはキリストであり、天地の主であると告白するのである。……

キリストの人性の栄光は、このお方が地上におられたときには現れなかった。このお方は悲しみの人で病を知っている人だと考えられていた。わたしたちは、顔をおおって忌みきらわれる者のように、このお方を侮った。しかし、このお方は神の計画されたとおりの道を進んでいかれた。その同じ人性は、今やこのお方が天から下られるときに、勝利に満ち、高められた栄光をまとうて現れる。……信じるこのお方の民は自分たちの召しと選びとを確かなものとしてきた。彼らははじめの復活のときに現れ、そして数え切れない声が「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとりて下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」と歌うのである(黙示録 21:3, 4)。(手紙 90, 1898 年)

12月18日

全世界の裁き主

「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。そして、すべての国民をその前に集めて」(マタイ 25:31, 32)

キリストはご自分の教えの中で、人に来るべき裁きの確かさと、その公共性を印象づけようとなされた。これは、数名の個人的な裁きでも、またある一国の裁きでもなく、人間という知的存在者、説明責任のある人々の全世界の裁きなのである。それは、神に対する人の愛、誠実、奉仕が最高にまで 誉れを受けることができるように、他の諸世界の面前で行われなければならない。栄光や誉れに欠けることはない。……神の律法がその大権のうちに表される。そして、その聖なるおきてに対して大胆に反逆してきた者たちは、自分たちが捨て、さげすんできた律法が……神のご品性の標準であることを悟る。……

このちりのように小さい一世界に、天の全宇宙が最高の関心を示している。なぜなら、イエスがそこに住む住民の魂のために無限の値を支払われたからである。……

神は人性を取られた苦しむ者たちの君が全世界の裁き主となるように定められた。人を永遠の死から救うために天の宮廷から来られたお方、……地上の裁判の召喚に甘んじられたお方、十字架の恥ずべき死に苦しまれたお方、このお方だけが報いか刑罰かの宣告を下すべきである。ここで十字架の苦しみと屈辱に甘んじられたお方が、神の法廷で最大限の償いを受け、全天によって、聖徒たちの王であると認められた王座に上られるべきである。このお方は救いの働きを引き受けられた。そして、墮落していない諸世界と天の家族の前に、このお方の始められた働きを、このお方は完成することがおできになることを示してこられた。……最後の刑罰と報いの日には、聖徒も罪人も、共にこの十字架にかけられたお方のうちに、あらゆる生ける者の裁き主を認めるのである。……

恩恵期間がわたしたちに与えられている。機会と特権がわたしたちに与えられている。それは、わたしたちの召しと選びを確かにするためである。わたしたちが自分自身を管理する忠実な執事となるために、わたしたちはいかにこの尊い時間をどのように重んじ、神が与えてくださったすべてのタラントを活用すべきであろうか! (レビュー・アンド・ヘルド 1898 年 11 月 22 日)

最後の決定の日は厳粛なものとなる! (同上)

勝利する正義

「また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。」(黙示録 20:12)

芸術家が磨かれたガラスに人間の顔を正確に写し取るように、神の御使たちは、毎日天の記録の書にすべての人間の品性の正確な描写を記録している。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 7 巻 987)

わたしたちが神の子となるとき、わたしたちの名は小羊の命の書に記される。そしてその名は調査審判が終わるときまでそこにとどまるのである。そのとき、すべての人の名が呼ばれて、その記録が吟味される。……もしその日に、わたしたちのすべての邪悪な行為が完全に悔い改められていないことが明らかにされるなら、わたしたちの名は命の書から消されて、わたしたちの罪がわたしたちに立ち向かうのである。(同上)

世において最も代価の高いものが罪であることを悟ることができないのであろうか。それは、良心の純潔を犠牲にし、神の恩寵を失うという代価を支払い、そして魂をこのお方から引き離し、そしてついには天を失うのである。……裁き主が座に着き書物が、すべての魂について救いか損失かを証するために開かれるときには、どんな場面が提示されることであろう！忠実な義人たちに報いをまた不忠実で不義なる者たちの……刑罰を最終的に与えになるために、人性を取って生きられ、人類を愛し、ご自分の命を人類のためにお与えになったお方の間違いのない判断が必要とされている。(原稿 36, 1890 年)

自分の救いの働きが、神とわたしたち自身の魂の間に横たわっている。すべての国民がこのお方の前で裁かれるために吟味されるのであるが、このお方は各個人の事情をあたかもその人一人しか地上にいないかのように厳密に見逃すことのない綿密さで探られるのである。……

全地の裁き主は正義の判決を下される。このお方は買収されることはない。このお方は欺かれることはない。人間を造られたお方は、そして諸世界とそこにある一切の宝を有しておられるお方、このお方が永遠の正義の秤で品性を測られるお方である。……各個人には救われるか、失われるかの魂がある。おのおのの判決は神の法廷で裁きを待っている。各々、偉大な裁き主に顔と顔を合わせてまみえなければならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1886 年 1 月 19 日)

命か死か

「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。」(ローマ 6:23)

「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」(ローマ 3:23)。しかし、キリストは罪人を死刑宣告から救い出すためにご自身の命をお与えになった。このお方は、わたしたちが生きていることができるために死なれた。……ご自分の死によって、このお方はすべての人の手の届くところに救いを置いてくださったのである。……

神はすべての人の救いを望んでおられるという、神の与えてくださった豊かな証拠が、天の賜物を拒んだ者たちを罪に定めることになる。すべての人が自分たちの従順か不従順によって報われるかあるいは罰せられる最後の大きな日に、全地の裁き主の前に永遠の判決を受けるために立つ者たちの前に、カルバリーの十字架がはつきりと現れる。彼らは、神が墮落した人類のために表現してくださった愛の幾分かを理解できるようにされる。彼らは、不法を続け、サタンの側を選び、エホバの律法への侮蔑を表した者たちによって、このお方がどれほどひどく辱められてきたのかを見る。……

今日御使たちは、救いを受け継ぐべき人たちに仕え、彼らがサタンの力の奴隷の束縛からまぬかれるのを助けるために遣わされている。……各人には、選択の自由が与えられている。彼が反逆の黒い旗印の下に立つか、あるいは血染めのインマヌエルの君の旗印の下に立つかを決定するのは彼の選択である。天は深く憂慮して、善と悪の間の争闘を見守っている。従順な者以外はだれ一人神の都の門に入ることはできない。不法を犯し続けることを選ぶ者たちには、ついに死刑が宣告されなければならない。地は彼らの悪行、彼らの神への反逆から清められるのである。……

神の律法はこのお方のご品性の写しである。そしてこの律法に服従する者たちだけが、このお方に受け入れられるのである。神の律法への服従からの逸脱の一つ一つは反逆である。神の律法に服従するというのは、人間の最高の益のためである。なぜなら、この律法の原則への一致が、義なる品性の形成に重要不可欠だからである。主がお与えになった命の法則は、人を純潔で、幸福で聖なる者とする。これらの法則に従う者たちだけが、キリストの口から、「上にあがってきなさい」とのみ言葉を聞くことができるのである。(レ・ユー・アンド・ハールド 1906年3月15日)

遅すぎる

「それについて、こう言われている、『きょう、み声を聞いたなら、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにはしてはいけない。』（ヘブル 3:15）

ああ、だれがあなたに、時と永遠を隔てる境界線のところで、義なる裁き主が、み声を上げて「遅すぎる」と宣告なさるときに起こる嘆きを描写するであろうか。長い間、天の広い門は開かれ、天の御使たちは、「いのちの水がほしい者は、だれでも価なしにそれを受けるがよい」と招き、嘆願してきた（黙示録 22:17 英語訳）。「きょう、み声を聞いたなら、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにはしてはいけない」。しかし、ついに次の命令が出されるのである。「不義なる者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」（黙示録 22:11）

天の門は閉じられ、救いの招きはやむ。天では、「事はすでに成った」と言われる。そのような時ははるか先のことではない。わたしはあなたに、永遠のために確かな働きをするように、そして福音の中にあなたの前におかれている望みを堅くつかんでいるようにとお願いする。狭い門に入るように奮闘しなさい。なぜなら、あなたがただ求めるだけでは、入ることはできないからである。

世は罪のもたらしたのろいに押しつぶされている。文字通り、世はノアの時代のように罪、暴力、そして墮落の大洪水である。しかしなお、わたしたちの世界歴史のこの恐ろしい時代にあっても、多くの者は眠っている。彼らはクリスチャンになる努力をやめてしまう。……

正直、高潔、魂の純潔、神や天使たちとの交わり、天国の望み、永遠の嗣業、言い尽くせない喜びと計り知れない祝福はあなたの長子権である。しかし、あなたはこれらの宝を、罪深い楽しみに換えてしまうのであろうか。……全世界がソドムのように沈められ、ゴモラのように滅ぼされるとき、世の楽しみはあなたに何を与えることができるであろう。……

罪人が自分たちの長子権を売ってしまったことを悟るときには遅すぎるであろう。彼らが持つことのできるはずであった冠は、他の人の額の上で輝く。彼らのものとなるはずであった嗣業は失われてしまった。あなたはいかに誘惑をもてあそんでいるか気をつけなさい。あなたがいかに自分の力を誇っているか気をつけなさい。キリストがあなたのとこしえの力であらわれる。神に信頼しなさい。このお方の力をつかみなさい。そうすれば、このお方は、あなたを勝利者としてくださり、あなたは勝利の冠をかぶることになる。（手紙 21, 1867 年）

12月22日

わたしたちの信仰を告白する

「だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。」(マタイ 10:32)

もし、キリストのみ言葉が聞かれるべき期間があるとすれば、それは今である。……真理の聖化を通して、わたしたちは、信者の前でも未信者の前でも義のために決然とした証を立てることができる。

わたしたちは、経験において自分たちがあるべきところにはるかに及んでいない。わたしたちは、聖化された唇からあふれるべき証を宣布することにおいて退歩している。キリストは食卓についているときでさえ、ご自分の言葉を聞いている者たちの心に慰めと勇気をもたらす真理をお教えになった。わたしたちは可能な限り、いつでもキリストのみ言葉を提示するべきである。もし、このお方の愛が魂にあり、そこに生きた原則として宿っているならば、心の宝庫から、その場にふさわしい言葉、すなわち軽々しい軽薄な言葉ではなく、人を向上させる言葉、真と霊の言葉が出てくるのである。……キリストを公に勇敢に告白し、言葉を選択する際に真の信心の単純さを表すとき、多くの説教よりも効果がある。キリストの柔和さを真に表す人はほんのわずかしかない。ああ、わたしたちは、このお方の柔和さを必要としているし、わたしたちはそれを持たなければならない。キリスト、すなわち栄光の望みが内に形成されるべきである。

わたしたちは、天にある世界へ移される準備をしている。わたしたちの会話は、天にあるべきである。そこからわたしたちは主イエスを探すのである。このお方は、すべての良い完全な賜物の与え主、またわたしたちのあらゆる祝福の創始者として認められるべきである。このお方にわたしたちの永遠の命の望みが集中しているのである。(原稿 127, 1907 年)

だれにも、一瞬たりとも、もし自分の原則が知られるようになるとあまり高く評価されなくなるのではないかと恐れて、世の未信者たちから自分の信仰と教理を隠すことが自分の得になるという印象を決して与えるべきでない。キリストは、ご自分に従うすべての者に、公然と、雄々しく信仰を告白することを求めておられる。各々、自分の立場をとり、神がその人がそうなるべきだと定めてくださったとおりのもの、すなわち世と御使たちと、人々に対する見世物とならなければならない。全宇宙は、表現できないほどの関心をもって、キリストとサタンの間の大争闘の終局の働きを伺い見ようと見守っている。……決して、臆病や世間的な政策から、神の真理が、背後におかれることがないようにしなさい。(教会への証 6 巻 144, 145)

魂を勝ち取る者の報い

「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになつて永遠にいたるでしょう。」(ダニエル 12:3)

わたしがダニエルのこの言葉を考えるとき、わたしはいつの間にか夜起き上がつて、これらの言葉を何度も何度も繰り返している。「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになつて永遠にいたるでしょう」。天空に配列され、その名をもつて知られている太陽と星を見てみなさい。主は、多くの人を義に導く者は、星のようになつて永遠にいたるでしょうと仰せになる。(原稿 83, 1886 年)

魂を過ちから真理へ改心させることにまつわる関心事がいかに重要であるかを判断するためには、わたしたちは不死の価値を正しく評価しなければならない。わたしたちは第二の死の刑罰がどんなに恐ろしいものであるかを悟らなければならない。わたしたちは、贖われた者たちを待っている誉れと栄光を把握しなければならない。そして人間を高め、高尚にして、勝利者に王冠を授けることができるようにと死なれたお方のみ前で生きるということがどういうことであるかを理解しなければならない。

魂の価値は、有限な思いでは完全に図り知ることができない。贖われて栄光を着せられた者たちは、自分たちの救いにおいて器となつてくれた人々を、どんなに感謝して思い起こすことであろう! そのときは、だれ一人として、自己否定の努力や、辛抱強い働き、自らの忍耐、寛容、そして、もし自分の義務をなおざりにしたり、善を行うことに倦み疲れていたりしたなら、失われていたかもしれない魂に対する熱心な心の切望などを後悔する者はいない。

今やこれらの白い衣を着ている人々は偉大な羊飼いの囲いに集められる。忠実な働き人とその人の働きによつて救われた魂は、御座の真ん中で小羊から迎えられ、命の木と生ける水の泉に導かれる。キリストの僕は、どんな喜びをもつて、これらの贖われた人々を眺めることであろう。彼らは贖い主の栄光を共にする者とされたのである! 天国は、魂を救う働きにおいて忠実であつた者たちにとって、どれほどさらに尊いものであろう! 「賢い者は、大空の輝きのように」輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになつて永遠にいたるでしょう」。(教会への証 5 巻 620, 621)

人間と神の協力によつて成し遂げられる働きは、決して朽ちることがなく、永遠に残るのである。(クリスチャン教育の基礎 199)

12月24日

王を拝するために

「あなたの目は麗しく飾った王を見、遠く広い国を見る」(イザヤ 33:17)

もしわたしたちが、麗しく飾った王を見たいならば、わたしたちはここでそれにふさわしく振舞わなければならない。わたしたちは、子供っぽさを卒業しなければならない。挑発されるとき、黙していよう。沈黙が雄弁であるときがある。神のむすこ娘と呼ばれるのにふさわしい者とする忍耐と親切と寛容を表さなければならない。このお方を信頼し、このお方を信じ、このお方により頼まなければならない。キリストのみ足の跡に従わなければならない。このお方は「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と仰せになる(ルカ 9:23)。……あなたが沈黙しなければならないときに沈黙するというのは重い十字架かもしれない。それは苦痛に満ちた訓練かもしれない。しかし、あえてわたしはあなたに、悪に打ち勝つためには、怒涛のような怒りの言葉よりも、沈黙のほうが多くのことをなすということを保証する。

この地上で天の宮廷で場所を得るためにわたしたちがなるべき姿を学ばなければならない。キリストがわたしたちに教えようと望まれる教訓を学ばなければならない。それは、上なる宮廷で高等学校に入学するための準備ができるためである。その学校では、救い主がわたしたちに、ここでは理解できなかった皆さんのことを説明なさりながら、命の川のほとりにわたしたちを導いてくださる。……そこでわたしたちは、ここで決して見ることのできなかったような神の栄光を見るのである。わたしたちは今栄光を垣間見ているに過ぎない。なぜなら、主を知ることが切に求めているからである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1905年7月20日)

地上の学校で学ぶ一つ一つの正しい原則、一つ一つの真理は、わたしたちをその分だけ天の学校へと進ませる。キリストが地上での公生涯において、ご自分の弟子たちと歩み、語られたように、このお方は天の学校で教えられ、わたしたちを生ける水の川のほとりに導かれて、この地上では、罪によって人間の思いがあまりにも損なわれて限界があったために隠されていた奥義を表される。天の学校では、わたしたちは、一步一步、学びの最上級にまで到達する機会がある。そこでは、天の王の子供として、いつも王家の人々と共に住むのである。そこでは、わたしたちは麗しく飾った王を拝する。そして、このお方の比類なき魅力を眺めるのである。(両親、教師、生徒への勧告 208, 209)

わたしたちは長く待ってきた。しかしわたしたちの希望はかすんできてはいない。もし麗しく飾った王を見ることさえできれば、わたしたちは永遠に祝福されるのである。(教会への証 8巻 253)

将来の世界の栄光

「いにしえからこのかた、あなたのほか神を待ち望む者に、このような事を行われた神を聞いたことはなく、耳に入れたこともなく、目に見たこともない。」(イザヤ 64:4)

多くの者は、将来の世界の栄光を見抜き、自分たちに永遠の奥義の秘密が明らかにされることにあこがれてきた。しかし、彼らは、むなしく戸をたたいたのであった。表わされたことがわれわれとわれわれの子孫のものなのである。……偉大なる啓示者は、わたしたちの知性に、天の魅力を理解し、報いの報酬に敬意を払うために重要不可欠な多くの事柄を明らかにしてこられた。……

イエスが天の事柄に関して開いてみせたことは、ただ霊的な思いによつてのみ正しく評価されることができる性質のものである。想像力を結集して、天の栄光を描こうとするかもしれないが、「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」(コリント第一 2:9)。天の知的存在者たちがわたしたちを取り囲んでいる。……光の御使たちは、魂の周りに天の雰囲気を作り出し、目に見えない永遠へと引き上げている。わたしたちは、肉眼で彼らの姿を見ることはできない。ただ霊的な視力をもって天の事柄を識別できるだけである。わたしたちの人間の力は、光の御使たちの表現しつくせない栄光によって消滅してしまうことであろう。霊的な耳だけが天の声のハーモニーを聞き分けることができる。まばゆいような描写で感情を沸き立たせるのは、キリストのご計画ではない。……このお方は、十分な明瞭さをもって、道であり、真理であり命であるご自身を表してこられた。そして、唯一救いを獲得できる手段としてこれを示して来られた。これ以上のことは実際には要求されていないのである。

このお方は、天の門の敷居にまで人間の魂を連れてくることができになる。そして、開かれた門を通して、わたしたちにその中を示し、天の聖所にあふれ、その門を通して輝き出ている栄光を示すことができになる。しかし、わたしたちは、それを肉眼ではなく、信仰によって眺めなければならない。このお方はわたしたちが人間であつて、まったくのろいによって麻痺し、損なわれたこの世で神のみ働きをしなければならないことを忘れておられない。わたしたちが天の光のうちに歩まなければならないのは、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおっている、死の帳(とぼり)のように道徳的な闇で覆われたこの世においてなのである。(手紙 30, 1893 年)

12月26日

「祝福された人たちよ、来なさい」

「しかし、聖書に書いてあるとおり、『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』のである。」(コリント第一 2:9)

真に神を愛する者たちは、このお方が自分たちに賜ったタラントを向上させて、他の人たちの祝福になりたいと望む。そして、やがて天の門が彼らを受け入れるために広く開かれて、栄光の王の唇より、彼らの耳には豊かな調べのような「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」との祝福を聞くのである(マタイ 25:34)。こうして贖われた者たちは、イエスが自分たちのために備えてくださった住まいに歓迎される。そこで彼らと共にいる者たちは、地上の下劣な人々ではなく、神のみ助けを通して完全な品性を形成してきた人々である。すべての罪深い傾向、すべての不完全は、キリストの血によって取り除かれている。そして、真昼に煌々と輝く太陽の明るさをはるかにしのぐ、このお方の栄光の卓越さと明るさが、彼らに与えられる。そして、道徳的なうわし、このお方のご品性の完全さが、彼らを通して輝くのであるが、それは価値においてこの外面の輝かしさをはるかにしのぐのである。彼らは、大いなる白い御座の前で御使たちと尊厳と特権をわかちあい、傷のない者である。

「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」。自分のものとなる栄光に満ちた嗣業を考えると、「どんな代価を払って、その命を買いもどすことができますか」(マタイ 16:26)。その人は貧しいかもしれないが、しかし自らのうちに世が決して与えることのできない富と尊厳を所有しているのである。魂が罪から贖われ清められて、そのあらゆる高尚な力と共に神のご奉仕に捧げられるとき、非常にすぐれた価値を持っている。(見張り人 1908年3月31日)

この祝福された者のふるさとに永遠に住むということ、魂と体と霊に、罪とのろい暗い形跡を残すのではなく、わたしたちの創造主に完全に似た姿を帯びること、永遠に続く時の中で、知恵と知識と聖潔さにおいて、絶えず進歩し、常に思想の新しい分野を探求し、常に新しい驚きと新しい栄光を見出し、常に知り、喜び、愛する能力が増し加えられること、そしてなお、わたしたちの行く先にはさらに無限の喜びと愛と知恵があることを知っていること。クリスチャンの希望が指し示している目的とはこうしたもののなのである。(両親、教師、生徒への勧告 55)

天への熱望

「わが魂は絶えいるばかりに主の大庭を慕い、わが心とわが身は生ける神にむかって喜び歌います。」(詩篇 84:2)

神の民が目はこの地上の事柄から離して、それらを天と天の事柄におくとき、彼らは特別な民となる。なぜなら、彼らは、神が人の子らに示してこられた憐れみといつくしみと同情を見るからである。このお方の愛は、人からの反応を呼び覚まし、そして彼らの生活は、周囲にいる人々に神の御霊が彼らを支配していること、また彼らは、自分たちの愛情を地上のものではなく、上にあるものに据えていることを示すのである。

天のことを考えるとき、想像力を極限まで遠く及ばせ、考えられるかぎりの最も高尚な思想を考えるかもしれないが、わたしたちの思いは主題の広さと深さと高さを理解しようとする努力に次第に疲れてしまう。わたしたちの思いが永遠の偉大な主題を会得することは不可能である。わたしたちの品性を余すことなく善へと作用させ、わたしたちの思いに向上させる感化を受けるための努力をすることなく、これらの主題を理解しようとする努力することすら、わたしたちには不可能である。キリストがどのようにして墮落した人間のために死なれるためにわたしたちの世に来てくださったのかを考えると、わたしたちは、自分たちの贖いのために支払われた代価の幾分かを理解する。そして、わたしたちは神から離れては、真の善も偉大さもないことを悟るのである。

カルバリーの十字架から輝いている光によってのみ、罪と、人間が罪によって落ち込んだ墮落の深さを知ることができる。わたしたちを引き上げるために天から下ろされた鎖の長さによってのみ、自分たちが沈んだ深みを知ることができる。そして、わたしたちが贖いというすばらしい主題の何がしかを理解できるのはただ目に見えない現実をいつも視野に入れていることによってのみである。(原稿 17, 1888 年)

わたしたちはまもなく家に着こうとしている。まもなく、どんな音楽よりも豊かな救い主の、あなたの戦いは終わった、主の喜びに入れ、とのみ声を聞くのである。幸ある、実に幸ある祝福である。わたしは、それをこのお方の不死の唇からお聞きしたいと願う。このお方を讃美したい。御座に座しておられるこのお方に誉れを帰したい。天の宮廷中に自分の声を幾重にもこだませたいのである。あなたもそこにいるであろうか。……神はわたしたちを助け、わたしたちをすべての満ち満ちた徳と力で満たしてくださる。そのとき、来るべき世界の喜びを味わうことができる。(原稿 8, 1888 年)

12月28日

命の木のそばで

「彼らは新しい歌を歌って言った、「あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふさわしいかたであります。あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない」(黙示録 5:9)

わたしたちは、ついには天にたどり着き、天の聖歌隊に加わることを期待しているであろうか。品性に限って言えば、わたしたちは自分たちが墓に入るときのみまで、そこからよみがえるのである。……今は、洗い、またアイロンをかけるべきときである。……

ヨハネは神の御座とその御座の回りの一群を見て、たずねた。彼らはだれですか。「彼らは……その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである」との答えが与えられた(黙示録 7:14)。キリストは彼らを生ける水の泉へと導かれる。そこには、命の木があり、また尊い救い主がおられる。ここでわたしたちは、神の命で測られる命を提示される。そこには、痛みも、悲しみも、病も、そして死もない。あるのは平安と調和と愛だけである。……

今は恵みと強さと力を受けて、わたしたちの人間の努力と結合させるべきときである。それは、永遠の生涯のための品性を形成することができるためである。こうするとき、天の御使たちがわたしたちに仕えるのを発見する。そして、わたしたちは神の相続人、イエス・キリストの共同相続人となるのである。そして、最後のラッパが鳴り渡るとき、死人は、その牢獄から呼び出され、一瞬にしてまたたく間に変えられ、朽ちない栄光の冠が勝利者の頭の上に置かれるのである。真珠の門が真理を守ってきた国民たちのために勢いよく開かれ、彼らはそこに入る。争闘は終結したのである。

「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」(マタイ 25:34)。わたしたちはこの祝福を望んでいるであろうか。わたしは望む。そしてわたしはあなたも望むと信じている。神があなたを助けてくださって、あなたがこの生涯の闘いを戦い、日ごとに勝利を得て、ついには、自分たちの冠をイエスの足元に投げ出して、金の立琴を手にとり、全天を最も美しい調べで満たす人々のうちに数えられるように。わたしはあなたがわがイエスを愛するようにと願う。……わが救い主を拒んではならない。なぜなら、このお方は、あなたのために無限の代価を支払われたからである。わたしは、イエスのうちに比類なき魅力を見る。そして、あなたにもこれらの魅力を見てほしいのである。(原稿 84, 1886 年)

天の雰囲気を呼吸する

「彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。」(黙示録 7:14)

ヨハネは幻の中で、白い衣を着ている一群を見た。……彼らが、神の宮にいるのが見られた。これは、キリストの功績をしつかりとつかみ、自分たちの衣をこのお方の血で洗うすべての人々の行く末である。わたしたちがキリストと共にこのお方の御座に座ることができるように、すべての備えがなされてきた。しかし、その条件は神の律法に調和していることである。……

わたしたちは、天を失うようなことはできない。自分たちの会話を天の事柄に關するものとしなければならない。そこには、死も痛みもない。なぜわたしたちは、これらの事柄を語るのにこれほどまで気乗りがしないのであろうか。なぜ、地上のことばかり考えるのであろうか。使徒はわたしたちの会話を天に置くようにと訓告している。「しかし、わたしたちの国籍(英文訳:会話)は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる」(ピリピ 3:20)。……キリストは準備のできた者たちを迎え、彼らをこの栄光に満ちた場所へ連れて行くために、まもなく来られる。「キリストもまた、多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた後、彼を待ち望んでいる人々に、罪を負うためではなしに二度目に現れて、救を与えられるのである」(ヘブル 9:28)。

わたしたちは、この出来事を考えることを愛するであろうか、あるいはそれらを取り消してしまいたいと思うのであろうか。……わたしたちがイエスのことを話せば話すほどこのお方の神のみかたちをますます反映するようになる。わたしたちは眺めることによって変えられるのである。キリストを自分たちの宗教経験に取りこむ必要がある。あなたがたが共に集まるとき、会話がキリストとこのお方の救いについてであるようにしなさい。……イエスのことを語れば語るほど、ますますこのお方の比類ない魅力を見るようになるのである。(原稿 60, 1886 年)

この世の生涯において、神のことを考え、語ることを喜びとしない人は、神が永遠にご臨在しご自分の民とお住みになる、来るべき生涯を楽しむことはない。しかし、神のことを考えることを愛する人々にとっては、天の雰囲気を呼吸し、水を得た魚ようになる。地上で天を考えることを愛する者は、その聖なる交わりと喜びのうちに幸福になる。……「のろわるべきものは、もはや何ひとつない。神と小羊との御座は都の中にあり、その僕たちは彼を礼拝し、御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている」(黙示録 22:3, 4)。(レビュー・アノ・ヘルド 1890 年 5 月 13 日)

12月30日

喜びは永久に

「その後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手にとって、御座と小羊との前に立ち」(黙示録 7:9)

あらゆる階級、あらゆる国民、部族、民族、国語が、自分たちのしみのない衣と宝石で飾られた冠をつけて神と小羊の御座の前に立つ。御使は、彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。その一方で神を愛するより娯楽を愛し、自己放縱と不服従を愛してきた者たちは、両方の世界とも失った、と言った。彼らにはこの地上の事物も不死の生涯もない。

勝利の歌と、冠と立琴とをもっている勝利した一群は地上の苦難が熱せられ、激しい熱さであったときに、その火の炉の中を歩んできた。彼らは、欠乏から、飢えと責め苦から、そして深い自己否定と苦い失望からやってきたのであった。今や勝利者である彼らを見なさい。もはや貧しくもなく、キリストのために悲しむことも、苦悩することも、あらゆる人の憎しみにあうこともないのを見なさい。彼らの天来の衣が白く輝き、どんな王衣よりも富んだものであるのを見なさい。信仰によって、彼らの宝石で飾られた冠を見なさい。このような王冠が地上の君主の額を飾ったことはなかった。

彼らが大声でホサナを歌い、彼らが勝利のしゅろの枝を振るのを聞きなさい。彼らの声が「ほふられ、よみがえられた小羊こそはふさわしい、ふさわしい。救は、御座にいますわれらの神と小羊からきたる」と歌うとき、豊かな音楽が全天を満たす。そして天使たちの万軍、天使たちと大天使たち、また覆うことをなすケルビムと栄光に満ちたセラピムがそれらの喜びに満ちた勝利の歌に答えて「アアメン、さんび、栄光、知恵、感謝、ほまれ、力、勢いが、世々限りなくわれらの神にあるように、アアメン」(黙示録 7:12)という旋律をこだまさせるのである。

ああ、その日は、義人たちが賢い者であることがわかり、罪深い不服従な者たちが愚かな者となるであろう。……恥と永遠の侮辱が彼らの分である。キリストのための共労者であった人々はそのとき、純潔と永遠の義の衣を身に着けて神の御座の近くにいる。(手紙 71, 1878 年)

聖なる愛の王国

「この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となった。主は世々限りなく支配なさるであろう」(黙示録 11:15)

キリストの王国の統治は、地上の統治とまったく異なる。それは、王国を構成する人々の品性の代表である。……このお方の宮廷は、聖なる愛が支配し、その勤めと任命は愛の行使によって栄誉を受ける。このお方はご自分の僕たちが哀れみと愛にみちた親切、すなわちご自分の特質を自分たちのあらゆる職務に持ち込むようにと命じておられる。……

キリストの力だけが、神の王国でこのお方と共に新しい命にあずかりたいと願うすべての者が経験しなければならない心と思いの変化をなすことができる。……このお方に正しく仕えるためには、わたしたちは、神の霊によって生まれなければならない。これは心を清め思いを新たにし、わたしたちに神を知り、愛する新しい能力を与える。それがわたしたちにこのお方のすべての戒めに喜んで従いたいという心を与えるのである。これが真の礼拝である。(原稿 9, 1908 年)

「定め祭の町シオンを見よ。あなたの目は平和なすまい、移されることのない幕屋エルサレムを見る。その杭はとこしえに抜かれず、その綱は、ひとすじも断たれることはない。主は威厳をもってかしこにいまし、われわれのために広い川と流れのある所となり、その中には、こぐ舟も入らず、大きな船も過ぎることはない。……主はわれわれのさばき主、主はわれわれのつかさ、主はわれわれの王であって、われわれを救われる。……そこに住む者のうちには、『わたしは病氣だ』と言う者はなく、そこに住む民はその罪がゆるされる」(イザヤ 33:20 - 24)。

「『しかし、あなたがたはわたしの創造するものにより、とこしえに楽しみ、喜びを得よ。見よ、わたしはエルサレムを造って喜びとし、その民を楽しみとする。わたしはエルサレムを喜び、わが民を楽しむ。泣く声と叫ぶ声は再びその中に聞えることはない。……彼らは家を建てて、それに住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。彼らが建てる所に、ほかの人は住まず、彼らが植えるものは、ほかの人が食べない。わが民の命は、木の命のようになり、わが選んだ者は、その手のわざをながく楽しむからである。彼らの勤労はむだでなく、その生むところの子らは災にかからない。彼らは主に祝福された者のすえであって、その子らも彼らと共にいるからである。彼らが呼ばないさきに、わたしは答え、彼らがなお語っているときに、わたしは聞く。おおかみと小羊とは共に食らい、ししは牛のようにわらを食らい、へびはちりを食物とする。彼らはわが聖なる山のどこでもそこなうことなく、やぶることはない』と主は言われる」(イザヤ 65:17 - 25)(原稿 9, 1908 年)

キリストと律法 (VI)



キリストと律法

ガラテヤ書にある律法

わたしはしばしばガラテヤ人への手紙にある律法について、尋ねられた。キリストへ導く養育掛となる律法はどちらなのかと。わたしは、次のように答える、礼典律と十の戒めの道德律の両方であると。

キリストはユダヤ制度全体の基礎であられた。アベルの死は、カインが従順の学校でキリストを指し示していた犠牲の捧げものによって型として表されていたイエス・キリストの血によって救われるという神のご計画を受け入れることを拒んだ結果であった。カインは、世のために注がれるキリストの血を象徴していた血の注ぎを拒んだ。この儀式全体は神によって整えられ、キリストが全体系の基礎となられた。これが、罪深い人間をユダヤ制度の全体の基礎なるキリストを考えるように導く養育掛としての律法の働きの始まりである。

聖所に関連して奉仕をしていたすべての人は、人類のためのキリストの仲裁に関して絶えず教育を受けていた。この奉仕は、すべての人の心のうちに、神の律法に対する愛を創造するよう意図されていた。この律法は、神の御国の律法である。犠牲の捧げものは、キリストー苦しみ、死んでいく犠牲、ご自身の上に人類が有罪である罪を引き受けられ、わたしたちのために罪とされた罪のない存在のうちに表された神の愛の実物教訓となるべきであった。

この救いの偉大な主題を熟考することによって、わたしたちはキリストの働きを見る。御霊の約束された賜物ばかりでなく、この犠牲や仲裁の性質や品性が、わたしたちの心のうちに、高められた神聖にして高貴な神の律法の概念を創造すべき主題である。この律法はすべての人間に対して拘束力を持っている。禁じられた果実を食べるという小さい行動によってこの律法を犯したことが、人類の上

に、また地の上に、神の聖なる律法への不従順の結果をもたらした。仲裁の性質は、いつも神のご要求に対する不従順において最も小さな行為をなすことを恐れさせるべきである。

何が罪を構成するかについて明確な理解がなくてはならない。そしてわたしたちは従順から不従順への境界線を踏み越えるための最も小さな近づきを避けるべきである。

神はご自分の被造物のすべての一員が、世の救いのために無限の神の御子がお自分の命を与えることによってなされた偉大な働きを理解するよう望んでおられる。「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである」(ヨハネ第一3:1)。

罪人がキリストのうちに無限にして私心のない愛と慈愛が具体化されているのを見ると、その心にはキリストの引き寄せておられるところへ従っている感謝の傾向が目覚める。

特に道徳律

「このようにして律法は、信仰によって義とされるために、わたしたちをキリストに連れて行く養育掛となったのである」(ガラテヤ 3:24)。この聖句の中で、聖霊は使徒を通して、特に道徳律について語っておられる。律法はわたしたちに罪を明らかにし、わたしたちにキリストの必要を感じさせ、神への悔い改めとわたしたちの主イエス・キリストに対する信仰を働かせることによって許しと平安を得るためにこのお方の許へと逃れさせる。

先入観のある意見を譲ろうとせず、この真理を受け入れようとしない気持ちが、ワグナー兄弟とジョーンズ兄弟を通して与えられた主のメッセージに対してミネアポリスで表された反対の大部分の基礎をなしている。反対をかきたてることによって、サタンはわたしたちの民から、神がご自分の民に与えたいと切望しておられる聖霊の特別な力を大いに彼らから遠ざけることに成功した。敵は、使徒たちがペンテコステの日の後に真理を宣布したように、彼らが真理を世に伝えることにおいて自分たちのものとなったはずの能力を得ることを妨げた。全地をその栄光で明るくするべきであった光が拒まれ、そしてわたしたち自身の兄弟の行動に

よって、その光が大いに世から遠ざけられた。

十戒の律法は、大いに禁止の側から見られるべきではなく、憐れみの側から見られるべきである。その禁止は、従順にあつて確かな幸福の保証である。キリストのうちに受けいられるとき、それは品性の純潔をわたしたちのうちに生じさせ、永遠の年月にわたってわたしたちに喜びをもたらす。従順な者にとって、それは防壁である。わたしたちは律法のうちに神のいつくしみ深さを眺める。このお方は、人に義の不朽の諸原則を表すことによって、彼らを不法の結果生じる悪から保護しようとしておられる。

わたしたちは罪人をその罪のゆえに罰しようと待ち構えているものとして神を見てはならない。罪人は、自らの上に刑罰をもたらすのである。自分自身の行動が、確かな結果をもたらす一連の状況の引き起こすのである。不法の一つ一つの行為は罪人に反作用を及ぼし罪人のうちに品性の変化をもたらし、再び違反することをますます容易にする。罪を犯すことを選ぶことによって、人は自らを神から引き離し、自らの祝福の水路から切り離す。そして確かな結果は破滅と死なのである。

律法は神のお考えの表現である。それをキリストにあつて受け入れるとき、それはわたしたちの考えになる。それはわたしたちを生来の願望や傾向の力に超越して引き上げ、また罪へ導く誘惑に超越して引き上げる。「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまづかすことはできません」(詩篇 119:165)。

不義のうちに平安はない。悪人は神と戦争しているのである。しかし、律法の義をキリストにあつて受け入れる人は、天と調和している。「いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけし」(詩篇 85:10)。

たちのまわりにあるものは、みんな消えていきます。いす、テーブル、カーペット、ラジオはみんな消えてしまいます。顔がぼやけていきます。光が消えていきます。ますます、暗くなっていきます。

すぐに、わたしたちは年月をこえて過去にもどりました。それはロケットのようです。わたしたちは一瞬で何百年も、何千年もこえて動くのです。イエス様が地上に生きておられた時をこえます。ダビデの時代をこえます。アブラハムの時代をこえます。ノアの時代をこえます。アダムの時をこえます。

まあ、なんと暗いことでしょう！何も見ることはできません。わたしたちのまわりは真っ暗です。どこにも光のひとすじもありません。一番小さなろうそくさえありません。一番かすかな星さえありません。ただやみと夜しかありません。

しかし、わたしたちは何かを聞くことができます。ちょうど、わたしたちが海辺や、あるいは湖でボートをこいでいるときに、何度も聞いたことがあるような、何かがひゅーっという音や、水のようなごぼごぼという音をたてています。(つづく)

もちりレンコン団子

<材料> 分量 :10 個分 調理時間 :20 分

レンコン	15 cm
パン粉	大さじ 1
片栗粉	大さじ 1
青のり	小さじ 2
塩	ひとつまみ
しょうゆ	少々
揚げ油	適量

作り方

- 【1】 レンコン 10cm をすりおろします。残りの 5cm はみじん切りにします。
- 【2】 パン粉、片栗粉、青のり、塩、しょうゆと 1 のレンコンとよく合わせ、2、3cm の団子に丸めます。
- 【3】 油（中温）でこんがり揚げたら出来上がりです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



パート1 第3話

すべてのものは、どのように始まったか？(1)

ずっと前に、わたしは男の子が道で小さい変わったものを拾いあげた物語を読みました。それはひづめのような形をしていて、そこにはふしぎな名前が書かれていました。その男の子は、名前を発音してみようとしたが、できませんでした。彼はなんどもなんども、ためしてみましたが、その後、ある日、彼がちがった方法で言葉を言ってみると、そのものは、彼の手の中で大きくなり始めました。それはどんどん大きくなって、ついに、ひづめは戸口くらいの大きさになりました。彼はその間をくぐりました。すると、彼は、海をこえた外国にいることがわかりました。

来る日も来る日も、彼は自分のひづめを使って、いろいろな種類の変わった場所へ行きました。それから、彼は、人がずっと昔はどのように生活していたのかを見てみたいと思いました。そこで、彼はひづめに魔法(まほう)の言葉をささやいたときに、シーザーの時代のローマへ行きたいと

言いました。すると、そくざにその場にいました！

もちろん、これは作り話です。しかし、これはわたしたちにある考えを与えます。あなたは時の一番最初がどのような世界であったか行って見てみたいと思いますか？行きたいですか？よろしい、ではわたしたちがくぐれば年月をこえて過去を旅行できる門があると想像してみましょう。

じっとして。気をつけて。さあ、そこをくぐって行きましょう。わたし

